

指定管理施設・出資法人調査特別委員会 現地調査活動状況

1 日時 令和3年7月29日(木)

2 出席委員(9名)

委員長 大久保 俊雄

副委員長 向山 憲稔

委員 鷹野 一雄 志村 直毅 浅川 力三 遠藤 浩

山田 七穂 流石 恭史 永井 学

3 欠席委員 なし

4 調査先及び調査内容

(1) (公財)山梨県青少年協会【出資法人】、山梨県立青少年センター【指定管理施設】

○調査内容(主な質疑)

問) 本館、別館、リバーズ和戸館の各館は何年に設置されたのか。

答) 本館と体育館・プールが昭和45年、別館は平成元年、リバーズ和戸館が平成2年の築である。

問) 本館があってリバーズ和戸館をつくったのか。リバーズ和戸館はどのような目的、必要性で当時建設されたのか。

答) リバーズ和戸館は県がつくったのではなく、今の厚労省の前身の労働省がつくったと聞いている。なぜこの隣につくったのか、正確な話は聞いていないので、私のほうではお答えし兼ねるが、県とは別につくったということを知っている。

問) 今後の施設の計画の中で、明確に廃止と決まっているものについて、今後の予定も含めてお伺いしたい。

答) 青少年センターについては、リバーズ和戸館への集約ということで、県としては方針を出しているところであるが、今の計画でいくと、廃止予定は体育館、プール、本館、別館である。

問) 現在の青少年協会の体制は、青少年センターに12名、愛宕山に10名、八ヶ岳少年自然の家9名、事務局に3名となっているが、愛宕山こどもの国の状況が変われば、全体の人数を絞ることになるのか、それとも、ほかへ行くことになるのか、協会の運営全体にかかわることだと思うが、現在の検討状況を聞きたい。

答) 愛宕山少年自然の家と愛宕山こどもの国は、施設は別であるが、一体で管理をしていて、委員がおっしゃるように、少年自然の家の宿泊部分がなくなることの影響は出てくると思っている。ただ、少年自然の家の事業として、ネイチャーゲームなどいろいろな事業があるが、それは少年自然の家の場所を使わなくても、こどもの国のキャンプ場でもできる部分がある。今後、県との委託内容がどうなるかによって人員は見通せないところがあるので、セ

ンターの集約化の動向などを見きわめながら、いろいろ検討を進めているところである。

問) 委託に出している県側としては、今後青少年協会に大きな影響が出る可能性もある中でどう考えているのか。

答) 青少年センターも含めて集約化の方針を出す中で、青少年教育施設としては、青少年協会に指定管理をお願いしている八ヶ岳少年自然の家への集約と、上野原にある、ゆずりはら青少年自然の里も八ヶ岳へ集約するというので、もちろん八ヶ岳の施設を充実していかなければならないと考えているが、愛宕山のほうは子育て支援局所管で、部局もまたがっているの、関係部局や指定管理者である青少年協会とよく話をして、よりよい施設になるように、連携して進めていきたい。

問) 施設がなければ県の青少年施策を充実したものにできないというわけではないが、県が出資している青少年協会であるので、青少年協会と一緒に、しっかりと山梨県全体の青少年施策を進めていただくよう期待しているので、よろしくをお願いします。

問) 子供教室の内容について、どのようなことをしたのか。

答) 現在は、甲運小学校で年間10回程度実施している。例えばダンス。ダンスといっても自由に自分たちで踊るようなものの指導。あるいはサイエンスショーという形で実験をする。あるいは体操するなど、八ヶ岳、愛宕山、青少年センターで実施しているさまざまなプログラムのうちの幾つかを子供たちと一緒にやっている。

問) 子供教室は甲運小学校だけで実施しているのか。

答) 現時点では甲運小学校だけであるが、令和3年度からは、甲府市から要請があり、なかなか豊富なプログラムを展開できるところがほかにないため、試験的にほかのところにも広げてほしいということで協議をしているところである。

問) 近くの甲運小学校で実施しているということだが、甲府市内小学校は数多くある。遠くからここへ来るのは無理かもしれないが、ブロックごとに分けて、できれば県内の小学校で、こういうことができればいいが、とりあえず甲府市の小学校で子供教室を一律受けられる環境をつくってほしいと思うが、その点についてはどうか。

答) 我々としても、施設だけでなく、いろんなインストラクターの資格や経験を積んだ人間がいることが強みなので、それを市民・県民の皆様に還元していきたいと考えている。甲運小学校だけにとどまらず、甲府市内に広げていきたいが、現状、なかなか少ない人数の中で、施設運営もしながら、その間に半日かけて出ていく、さらに準備をするということになると、最低でも2、3人、その事業にとられてしまうので、手広くやれないのが実態である。しかし、我々としても広げたいし、甲府市としてもぜひやっていただきたいとのこと。さらに、我々には、八ヶ岳・愛宕山もあるので、甲府市だけにとどまらない。ただ、いろいろな市町村の教育委員会と話をさせていただいているが、現在、まずは甲府市からお願いできないかということで進めている。それをどこまで拡大できるか、下世話な話になるが、現時点では、お試して社会還元の一環として無償でやっている。ただ、これが全小学校となると、先ほど出たように、協会の体制として、果たしてそれでやっていけるかということもあるので、教育委員会とも協議しながらやっていきたい。

問) 本館の研修室、和室、第3会議室などが廃止になる予定だが、年間の利用人数は何人くら

いか。

答) 定員72名の大きな第1研修室が令和2年度は約4,700名でしたが、令和元年度が約1万4,000名、平成30年度が約1万6,000名で、年間1万5,000名程度の利用となっている。定員24名の第3会議室は、6,000名から5,000名程度の利用、それから、第1研修室は先ほど1万5,000名程度と申し上げましたが、第2会議室も約1万名、第4会議室が約4,000名、第1・第2和室を合わせまして約2,000名の利用になっていて、宿泊棟も含めて、本館の全体の利用は4万5,000名ほどの利用となっている。ただ、昨年度は約1万5,000名ほどである。

問) 宿泊についてはどうか。

答) 宿泊は2,000名から3,000名である。

問) 体育館、プールはどの程度使っているのか。

答) 体育館が2万3,000名から2万5,000名程度、プールが1万8,000名から2万名である。

問) 今後の対応をどう考えているのか。

答) 体育館は2万5,000名ほど、プールは1万8,000名から2万名ほどの年間の利用者数ということで、体育館については、広さ的には狭くはなるが、リバース和戸にも体育室があるので、そちらの利用、それから近隣の緑が丘や小瀬の体育館の利用を促したいと思っている。プールについては、近隣の緑が丘や小瀬等にあるので、そちらの利用を御理解をいただきながら促していきたいと思っている。

問) 別館、会議室等々をリバース和戸に、これまでどおり収容できるのか。

答) 本館等の稼働率が40から50%程度でリバース和戸の稼働率が40%程度なので、本館等を集約して、リバース和戸館にしたとして、収容力という部分では、収容可能と考えている。



※リバース和戸館第2研修室で説明、質疑を行った後、現地視察を行った。

(2) 山梨県富士川クラフトパーク・山梨県立富士川観光センター【指定管理施設】

○調査内容（主な質疑）

問) クラフトパークと観光センターは、県の部局は違うが、指定管理は株式会社かいですたで、今パンフレットが2種類あるが、両方が合わさったような、それだけを見ればクラフトパークというメインの施設がわかるパンフレットは作成しているか。

答) パンフレットは、お手元にお配りしている2種類である。委員からお話があったクラフトパークの全体像について、情報をふやしたり、ページをふやしたりする方法もあるかと考えているが、まだ工夫が足りないところだと思っているので、努力したい。

問) コンテンツがこれだけたくさんある公園を、あえて部局が違うからという理由で2つに分けるのではなく、例えばクラフトパークのパンフレットの端の部分に観光センターのコンテンツが載っていると、カヌーをやりに来たけれど、実は来たら和紙があった。和紙とカヌーがあるから、じゃあ子供を連れて行こうみたいなこともあり得ると思う。意外と知られていない部分が多いので、ここでできることがたくさんあることを示すような、この施設の魅力をもっとぎゅっとしたものを1枚づくりさえすれば、私は、もう少し効率的に集客が得られると思う。今度、中部横断自動車道も開通して、いよいよ他県の方が訪れるときに、2つに分かれていると非常にもったいない。部局が分かれているのは、あくまでも行政的な部分だけの話であって、観光客側からすると、全く関係のない話なので、ぜひいいものがあるだけに、統一したようなパンフレット、もしくは案内を作成してほしいと思うが、いかがか。

答) 本当に努力不足で申しわけなく感じている。静岡方面や県外にお知らせをするのに、そういった工夫なしにはうまく伝わらないのかなと改めて感じている。

問) 利用者アンケートの集計によると、99%の方が満足しているとの結果が出ているが、アンケートはどのような形でとっているのか。

答) 特に去年の場合は、お客さんが来なくて、いつもより数が少ないが、方法としては、一年を通じてアンケート箱を置いて、入れていただく格好にしている。しかし、そのままではなかなかアンケートは集まらないので、お客様の多いタイミングを見計らって、職員が配って、書いていただき、回収するというやり方をしている。

問) 利用者数13万3,000人中、回答数が211というのは、多いのか少ないのかよくわからないが、施設の利用者のニーズをしっかりと捉えるには、アンケートをしっかりとる中で、お客様の声を施設に反映させていくことが必要だと思う。利用者数に比べるとアンケートの数が少ないので、アンケートをしてくれた方に何かちょっとしたお土産を出すなどインセンティブを与えながら、しっかり意見集約をしていただきたいと思うが、その辺についてはどうか。

答) アンケートから得られる情報は非常に大事で、先ほど永井委員がおっしゃるようにコンテンツが多いので、いろいろな場所のいろいろな意見があり、非常にありがたいと思っている。例年大体400近くの本数を集めようということで、今までやっているが、たまたま去年はコロナの関係もあって、200ちょっとになってしまったが、ニーズに合った事業展開をしないと、利用者満足度は向上しないと胆に銘じているので、今までにまして、しっかりアンケートを回収、分析して、その声を反映するように努めていきたい。

問) パークカートで周遊できると思うが、パークカートの利用はどのくらいか。

答) パークカートは休みの日を中心にやっていて、非常にアップダウンが多い施設なので、高齢者の利用がある。多いときは30人を超える。コースを1周するのに大体30分かかかるので、運転手を除いて4人いっぱい乗って、帰ってくるとまだ待っているのので、1台あたり大体そのくらい的人数が限度かなと思っている。ただ、天気が悪いと全然稼働しないので、途中で打ち切る日もあり、非常に波があるところである。

問) 1台に4人乗れるぐらいのイメージで一日中動いていると大体30人ぐらいと理解した。写真で見ると2台走っているが、2台か。

答) 調子が悪くて1台でこしはやっているが、2台体制である。

問) レストランの利用者数は年間を通じてどのくらいか。

答) 令和2年度は3万8,000人ほどとなっている。

問) レストランの収支は自主事業になるのか。それとも指定管理料の収支全体の中に入ってくるのか。

答) レストランは専門の業者に再委託をされていて、賃料として年間300万円を預かって、県へお支払いをしている状態である。

問) 委託料はこの支出のところだと、どこに入るのか。

答) 再委託と申しましたが、委託料を払っているというよりも、使用料を外部委託先であるレストラン業者からお預かりして、うちが県のほうにお納めしているということで、委託料には出てこない。資料には、県にお支払いする額が使用料として出ている。

問) レストランの場所代、家賃はどのくらいか。

答) 122万円余りである。

問) 令和元年度に株式会社かいすたになってから、これまで以上に広告宣伝費に重点を置いているが、どんな工夫がされたのか。何かこれまでと違った広告宣伝をされたのか。

答) 年間2回から3回やっている企画展の期間中に新聞やテレビ、ラジオで継続的に宣伝する共催連携というものがあり、そこに力を入れてやっている。特に後半、コロナの関係で落ち込んでいる需要の取り込みに力を入れる必要があるので、積極的にそういったものをつくって、発信して、来てもらう。また企画展の案内はがきを作成し、これまで美術館を訪れた利用者へ送付した。そのための手数料や作成費用などである。

問) とてもすばらしい施設なので、多くの人に利用していただける工夫を両部で力を合わせてやってほしい。それと、営業時間はお客さんの多い週末は1時間延ばすなど、そういう検討はしているのか。あるいはその必要はないのか、その辺はいかがか。

答) レストランは通常11時からで、夕食での利用は余りないので、16時には大体終わりかなということで、そこら辺は安定していると思っている。美術館は、9時半から開館して、

最終の入館が17時までに入れば、17時半まで30分は見られることになっている。美術館は来る波があって、今の時期は子供向けの内容をやっているの、噴水やカヌーで遊んだ子供が、その帰りに寄ってくれて、午後一気に来るような波がある。内容も見ながら、その時間帯は担当者をふやして対応している。始まりを早くするのは、少し難しく、美術館を早く開館しても余り来ないかなと思っている。やはり15時、16時、夏でも15時だと引けてきて、家族連れが多いので、もう帰って夕飯の時間みたいな感じで、そういう意味では時間帯自体は今のところ、このまま様子を見ていいのかなと感じている。

問) かいすたになってから外部委託で清掃業務がなくなっているが、どういう対応をしているのか。

答) 清掃は職員にお願いしている。非常勤職員だが、来ていただいて短時間で、交代で手分けして直営で園内清掃をしている。

問) 平成元年にこの施設をつくった当初の目的として、この1から5までがあったのか、観光目的というのが一番大きかったのか、地域振興という意味が大きかったのか、当時の設置目的についてお伺いしたい。

答) 地域振興という意味で、峡南地域の特徴を生かして、近隣である静岡方面から広域的にお客さんに来ていただくという意味では観光も目的の一つにもなっている。

問) 総工費は当時どのくらいかかっているのか。

答) 今お答えが難しいのであれば、確認して、後ほどお願いします。
(現地視察終了時に、総工事費は91億円ほどであるとの回答があった。)

問) 設置目的で防災拠点とあるが、どういうところが防災拠点として機能しているのか。

答) 地域の防災拠点ということで、駐車場にヘリコプターがおりられるようになっていたり、地域の避難地になれるように、例えば井戸的なものをつくったりしているので、そういう意味で防災拠点としての機能を持っている。

問) 地震などの災害があったときに、ここに集まる計画となっているのか。

答) 防災計画の中に、この公園が位置づけられているので、地震あるいは水害等の際に避難地になる。

問) 富士川に水害があったときに、この地域は浸水しないということか。

答) 浸水ハザードマップ的に高いので、まず浸水することはない。

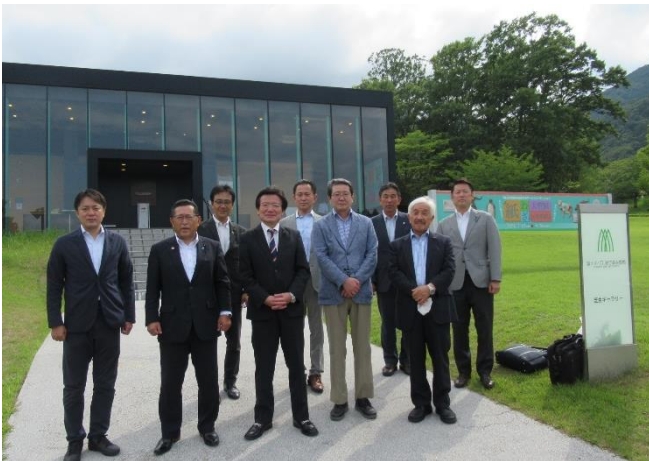
問) 設置目的の2番目に防災拠点とあり、訓練もしていると思うが、ここが拠点としてしっかり使えるよう使用方法の検討をお願いするが、いかがか。

答) その点は十分踏まえて対応してまいりたいと考えている。

問) 来月中部横断自動車道が開通するが、開通に合わせた静岡県との連携事業等はあるのか。

答) どのくらいの比率で県外の方がここに来てくれるか非常に注目している。普通の休日で、県外の方は3割ぐらいで、あとは県内の方という感触だが、ゴールデンウィークだと4割ぐらい県外の方々が来る。戦略として委員がおっしゃられたような、静岡県との連携に軸足を向けてやる必要があると想定しているが、先ほど申し上げた静岡県側のマスメディアや旅行者などから、今情報を集めつつありまして、提案をもらおうかと思っている。開通したら、静岡県のどのエリアから、どのくらいここへ来てくれる可能性があるのかを聞いたりして、戦略を練りたいと思っている。まだ構想段階だが、今から静岡県側との連携の重要性が増すので、一生懸命頑張っていきたい。

問) 大体3割、4割が県外ということだが、恐らく中部横断自動車道は大変インパクトがあって、山梨県の3倍以上の人口の静岡県からどのくらいの方が利用をするかはポイントだと思うが、中部横断自動車道沿いの施設との連携したキャンペーンや、山梨県・静岡県の両県立施設でポイントがたまるキャンペーンなど、そういった連携も可能性があると思うし、マスコミの部分でいけば、静岡新聞と山梨新聞は姉妹関係にあるので、そこで特集を組んで、両方の施設を紙面に載せてもらう展開を仕掛けていってもいいと思うので、そういったメディアも含め、中部横断自動車道の波及効果がある取り組みをしていただきたい。



※富士川観光センターものづくり館（3郷館）で説明、質疑を行った後、現地視察を行った。